



平成31年2月号 (第273号)



「あいち環境塾」オープン講座の参加者を募集します (P2)



あいち ECO ティーチャー養成校受講者が冬休み環境学習講座を実施しました (P2)



あいち低炭素社会づくりフォーラムを開催しました (P3)



産業廃棄物排出事業者セミナーを開催しました (P5)



エコアクションを
はじめよう！つづけよう！つなげよう！

<http://aichi-eco.com>



「あいち環境塾」オープン講座の参加者を募集します

愛知県では、企業・団体・行政など各分野で活躍する持続可能な地域づくりの環境リーダーの育成を目指して、平成20年度から「あいち環境塾」を開講しています。

今回、当塾のエッセンスが体験できる無料講座を開催しますので、お気軽にご参加ください。

- 1 日時 3月9日(土) 13:00~16:00
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM
名古屋ルーセントタワー16階A会場
- 3 参加費・定員 無料・50名(申込先着順)
- 4 プログラム

○ 卒塾生が語る会

「あいち環境塾」卒塾生が、体験談や現在の活動についてお話しします。

○ 参加者交流会

環境に関するいくつかのテーマについて、参加者の皆さんが気軽に意見交換を行います。

○ 講演会

「エネルギー・環境ビジネス
による地方創生」

講師：東京工業大学

特命教授・名誉教授

柏木 孝夫 氏 (当塾講師)



5 申込方法

2月28日(木)までに、下のWebページから直接お申込みいただくか、①氏名(ふりがな)②電話番号③住所④メールアドレス又はFAX番号を明記の上、Eメール又はFAXでお申込みください。

6 申込先・問合せ先

(公財)名古屋産業科学研究所

URL: <http://www.nisri.jp/chc/gathering.html>

電話: 052-223-6639

Eメール: chc@nisri.jp

FAX: 052-211-6224

〔資源循環推進課 循環グループ〕

電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

あいちecoティーチャー養成校受講者が 冬休み環境学習講座を実施しました

愛知県では、豊かな知識や経験を有する中高年世代の方に環境学習の講師として活躍していただくため、「あいち eco ティーチャー養成校」を昨年7月から開校しています。受講者は5グループに分かれ、12月25日から27日までの3日間、子どもたちとその保護者に向け、これまでに準備してきた、ゴミや水などに関するオリジナル講座を披露しました。



講座の様子

参加者からは、「マイクロプラスチックの実物を初めて見てさわった。ペットボトルなどがこんなに小さくなってしまふなんて、驚いた。」「クイズをしながら学べるのがおもしろかった。」等の声が聞かれました。

養成校受講者からは、「一人一人の強い思いをプログラムに取り込むことは大変だったが、達成感や成長を味わうことができました。」「押さえない言葉や重要なことがはっきりとした。」等の声が聞かれ、達成感だけでなく課題も見えたようでした。さらに良い講座にして、今後も実施していきます。

〔環境活動推進課 環境学習グループ〕

電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

講座名
どこへいく？プラスチックごみの真実！
食べ物とごみのさかい目はどこ？ ～ごみをなくそう大作戦～
きみは水なしで生きられるか！？
見えない水を見る！？～節水大作戦～
水の惑星地球を救え！ ぐるぐるトルネード実験で考えよう！

あいち低炭素社会づくりフォーラムを開催しました

愛知県では、12月21日に愛知芸術文化センター（名古屋市東区）で、松川浩明^{まつかわこうめい}県議会議員を来賓としてお招きし、「あいち低炭素社会づくりフォーラム」を約200名の方のご参加により開催しました。10月に制定した「愛知県地球温暖化対策推進条例」の下、「あいち地球温暖化防止戦略2030」及び「あいち自動車環境戦略2020」の施策を県民・事業者の皆さんに広く周知し、その推進を図りました。

1 認定証授与

エコカーの導入など、自動車環境の改善に積極的に取り組む「自動車エコ事業所」の方々や、CO₂の排出抑制に積極的に取り組む「あいちCO₂削減マニフェスト2020」を宣言した事業者の方々に、大村知事から認定証が授与されました。

自動車エコ事業所認定証 授与
ネットトヨタ中京株式会社 瀬戸店
ネットトヨタ愛知株式会社 プラザ鳴海
トヨタ車体株式会社 本社／富士松工場
トヨタ車体株式会社 吉原工場
あいちCO ₂ 削減マニフェスト2020 認定証 授与
株式会社ミウメイ
株式会社ティー・エイチ・ティー

2 基調講演

(株)大和総研 調査本部 研究主幹の河口真理子^{かわぐちまりこ}さんから、「脱炭素社会に向けた企業経営戦略」と題して、世界の動向は「低炭素社会」から、既に「脱炭素社会」を目指していることなどをご紹介いただきました。



河口さん

3 事例発表

イオン(株)グループ環境・社会貢献部長の金丸治子^{かなまるはるこ}さんから、「持続可能な社会の実現を目指して～イオンの挑戦～」と題して、2020年以降にCO₂排出量50%削減を目指す次世代スマートイオン開発の



金丸さん

取組などを、(株)豊田自動織機 生技・生産本部 PE環境部長の加藤祥文^{かとうよしふみ}さんから、「豊田自動織機の環境への取り組み」と題して、2050年工場CO₂ゼロに向けた同社の取組などをそれぞれ発表していただきました。



加藤さん

4 トークセッション

気象予報士で名古屋文化短期大学講師の早川敦子^{はやかわあつこ}さんと講師3名による「低炭素社会の実現に向けたビジネススタイル」をテーマとしたトークセッションを行いました。河口さんからは「2050年までにCO₂排出量実質0を達成しなければ、災害などが増えて、経済活動どころではなくなる」といった問題提起がなされ、あらゆる主体で課題を共有し、社会全体で地球温暖化対策の活動をつなげていくことの必要性、重要性について呼びかけがありました。



トークセッションの様子

県では、県民・事業者の皆さんに低炭素社会の実現に向けた意識の向上、行動の転換をしていただけるよう、「あいちCOOL CHOICE※」などの各種取組を推進してまいります。

※ 省エネ家電への買い換え、公共交通機関の選択、クール&ウォームシェアへの参加など、日常生活のあらゆる場面で地球温暖化防止行動を「賢く選択」していただく県民運動。



詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/aichicoolchoice.html>)

地球温暖化対策課 調整・企画グループ
電話 052-954-6213 (ダイヤルイン)

フードドライブを実施しました ～食品ロス削減に向けて～

愛知県では、食品ロス（まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品）の削減に向けた取組として、12月26日に開催された「子どもが輝く未来に向けたシンポジウム」の会場（ウィルあいち）において、フードドライブ*を実施しました。

その結果、44名の方々から合計294点、約88kgの食品の寄附をいただきました。ご協力いただき、大変ありがとうございました。



寄附された食品

※フードドライブは、家庭で余っている食品を持ち寄り、集まった食品を生活に困っている方や福祉施設などの食品を必要としている方へ届ける活動です。

寄附していただいた食品は、特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋を通じて、生活に困っている方や福祉施設など食品を必要としている方へ届けられます。

【主なフードドライブ実施団体の紹介】

○名古屋市

- ・環境学習センター（エコパルなごや）
- ・なごや生物多様性センター

いずれも毎月8日から14日まで（休館日を除く）の午前9時30分から午後5時まで受付

○小牧市社会福祉協議会

- ・南部コミュニティーセンター（ふらっとみなみ）
- 毎月23日の午前10時から午後2時まで受付

〔資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234（ダイヤルイン）〕

「全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部研究会」が 本県で開催されました

愛知県環境調査センターは、大気質や水質の状況調査や、未規制物質の測定方法等の研究を行い、本県の環境行政を科学的・技術的に支える試験研究機関です。

本センターが加入している全国環境研協議会の東海・近畿・北陸支部研究会が、1月24日・25日に愛知県三の丸庁舎で開催されました。支部に所属する17府県市の試験研究機関から、日頃の研究成果について23件の発表が行われ、本センターからも4件の発表を行いました。2日間で101名の参加があり、発表に対して、様々な意見や質問が飛び交い、盛会のうちに幕を閉じました。

本センターは、この研究会で得られた知見や経験を今後の業務に生かしていきます。

愛知県環境調査センターの発表テーマ

- ・浜田川における降雨時の汚濁負荷の調査結果について
- ・愛知県の「海上の森自然環境保全地域」におけるスミレサイシン開花状況調査
- ・長期液浸試験による再生品に含まれる有害物質等の溶出
- ・愛知県における環境放射能測定結果の推移
-福島原子力発電所事故時から今日までを中心-



発表の様子

〔環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489（ダイヤルイン）〕

産業廃棄物排出事業者セミナーを開催しました

愛知県では、平成28年1月に発覚した食品廃棄物の不適正処理事案を受け、再発防止に向けた取組を実施しています。

その一つとして、産業廃棄物の排出事業者が果たすべき役割を解説、周知する「産業廃棄物排出事業者セミナー」を12月18日にローズコートホテルで開催しました。

当日は、約300名の参加者の中、日本プラスチック工業連盟の岸村小太郎^{きしむらこたろう}さんを講師に迎え、「海洋プラスチック問題への対応と資源循環戦略」をテーマに御講演をいただくとともに、本県からは、「産業廃



会場の様子



講演の様子

棄物の排出事業者責任と実地確認に係る県条例の改正」及び「産業廃棄物の処理を優良産廃処理業者に委託するメリット」について説明しました。

参加者からは、「実地確認について詳しく教えていただいた」「今後の対応をきちんとしたい」「契約書、マニフェスト等を見直したい」「社内教育に活用したい」といった感想をいただきました。

資源循環推進課 産業廃棄物グループ
廃棄物監視指導室 指導グループ
電話 052-954-6235 (ダイヤルイン)



連載 サスティナ研ニュース ⑳

～シンポジウムに参加して研究成果を発表しました～

大学生を対象とした「人づくり」プログラム「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」では、12月2日に名古屋市立大学で成果発表会を開催し、研究員が半年間の研究成果を発表しました。

今回、12月15日に愛知学長懇話会と名古屋工業大学が主催した、第5回愛知学長懇話会サステナビリティ・リレーシンポジウム及び12月22日に同懇話会と名古屋市立大学が主催した第6回リレーシンポジウムに研究所代表チームが参加し、研究成果の発表を通じて研究所活動をPRしました。

第5回リレーシンポジウムは、「30年後の水と社会を考える」をテーマに開催され、研究所からは、「SDGs 達成に貢献する未来の『お洗濯』」について研究したチーム・Kaoが代表して参加しました。

また、第6回リレーシンポジウムは、「私たちがつくる持続可能な都市 名古屋 -SDGs「平和」×「貧

困」への挑戦-」をテーマに開催され、IKEA長久手において、「サステナビリティに対する意識を高める環境イベントの開催」について検討したチーム・イケアが参加しました。

シンポジウムには、各回のテーマについて取り組んでいる大学生や高校生のチームも多く参加しており、参加した研究員は、発表やワークショップ等を通じて学びやお互いの交流を深めました。



チーム・Kaoの発表の様子



チーム・イケアの発表の様子

環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210 (ダイヤルイン)

高校生が専門家等の支援を受けながら、環境問題について調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成する「あいちの未来クリエイト部」の活動が昨年6月から3月にかけて行われています。

今回は、「中部大学第一高等学校 科学部・教養部・ESD部」の皆さんの活動を紹介します。

【活動データ】

○テーマ

絶滅危惧種ウシモツゴの遺伝子解析と保全

○ファシリテーター

ビオトップ・ネットワーク中部

会長 はせがわ あきこ
長谷川 明子さん



ウシモツゴ

○協力いただいた専門家

岐阜大学 准教授 むかい たかひこ
向井 貴彦さん

碧南海浜水族館 副館長 ちむら よしずみ
地村 佳純さん

ウシモツゴは生息地である溜池^{ため}の埋立てや外来魚の侵入により減少し、絶滅危惧種になっています。中部大学第一高校では、ウシモツゴを地域の保護活動家の方に分けていただき、飼育と繁殖に取り組んできました。

このウシモツゴを放流するために、あいちの未来クリエイト部の活動では、飼育・繁殖方法の向上や、遺伝子調査を行い、放流できる場所を検討しました。

始めに、碧南海浜水族館の地村副館長からウシモツゴの生態や、個体群が濃尾平野グループ、長久手・日進グループ、伊勢・三河グループの三つのグループに分かれており、それぞれのグループのウシモツゴを近隣の水族館や動物園が協力して保全していることを教わりました。また、実際に水族館のバック



バックヤードの見学

ヤードでのウシモツゴの飼育方法を見学するとともに、遺伝子解析に必要なひれのサンプルを

採取する方法を教わりました。

次に、岐阜大学の向井准教授に指導していただき、本校で飼育しているウシモツゴと碧南海浜水族館で飼育しているウシモツゴの遺伝子を実際に調査しました。



サンプルの採取

後日、それぞれのウシモツゴの遺伝子データやそのデータを解析する方法を教わり、本校で飼育しているウシモツゴは、長久手・日進グループに属することが分かりました。



遺伝子調査の様子



遺伝子データの解析

実際にウシモツゴを放流する環境として、他のグループとの交雑や乱獲のおそれ無く、繁殖に適していることが必要になってきます。そのため、今後はそのような場所を探し、本校で飼育・繁殖したウシモツゴの放流を目指します。さらに、ウシモツゴの生態や減少している原因を学ぶことができる小中学生向け教材を作成し、ウシモツゴの保全が重要であることを地域の方に伝えていきます。

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
平成31年2月4日発行(第273号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
電話 052-910-5489(ダイヤルイン)

編集後記 先日、某ティースタンドのホットタンブラーを購入しました。インスタ映えするというのもあって人気らしいのですが、容器が二重構造なので持ったときに熱くないのに保温力があり、ペットボトル並みに持ち歩いて、お店に持参すればドリンク50円引きと、なかなかの優れものです。活用すれば、使い捨て容器の削減にも、保温ということでエネルギー使用の削減にも貢献してくれるので、買った人がみんな愛用するといいなと思います。(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境部 Web ページ「あいちの環境」<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、写真等をカラーでご覧いただけます。この記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。